

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 21 章 1~14 節>

①復活の記事が付加された意味を考える。

20 章で終わったヨハネ福音書に、誰かが復活のキリストの記事を加えました。それが 21 章です。それは何のためだったのでしょうか？ 復活されて 40 日後に、今度こそ本当に天に昇られて弟子たちの前から消えられたイエス様。21 章を読んで行くと、弟子たちが、「イエス様は、私たちの目の前におられようがおられまいが、いつも共に居て下さり、全てを支配し給う力を持つお方なのだ」と確信できるようになるための 40 日間であったように思えて来ます。そしてこれを読んで行くと、今の私たちにとっても必要な 21 章であることが分かって来るのです。

②苦勞をしたから出会える恵みがあり、喜びも大きくなることがある。

神様はなぜ、弟子たちが一晩徒勞で終わった後に現れられ、大漁に導かれたのでしょうか？ なぜ初めからそうして下さらなかったのでしょうか？ イエス様は冷酷なお方なのでしょうか？ そうではないと思います。弟子たちには、これから世界中への伝道という過酷な使命が待っています。それは決して喜びばかりに満ちた楽な道ではありません。しかし、その苦勞の先に信仰者が生まれる喜びが待っているのです。苦勞はある、しかし、それだけで終わるのではない。このことを彼らはこの時、経験できたのです。さらに、たとえ、そのような成果をこの世では得られなくても、「よくやった」と言って下さる神様の祝福に与れる時が約束されているのです。私たち一人一人が歩む人生も同じです。神様はこの出来事を弟子たちだけにではなく、今これを読む私たちにも慰めと励ましを与えてくれるものとして与えて下さったのです！

②神様は、私たちにも「参与せよ」と呼びかけて下さるお方！

魚とパンを用意し、火にかけて食べさせようとされていたイエス様。しかし、弟子たちが取った魚もそれに加えようとされたイエス様。神様は全て自分だけでおできになる方でありながら、造られた私たちと共になそうとして下さるお方なのです。このお方と共に生きて行くのが人生であることが分かったなら、この世で出会う苦勞も違った風に考えて行けるはずです。そうでなければ主に申し訳ないのではないのでしょうか。